

地域の住民のみなさまへ
漁業関係者のみなさま

陸水域の生物多様性の保全のために



地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

環境省

『生物多様性』とは？

生物多様性とは、全ての生物の間に違いがあり、お互いにつながりをもっていることです。

生物多様性には、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性という3つのレベルがあります。

生態系の多様性

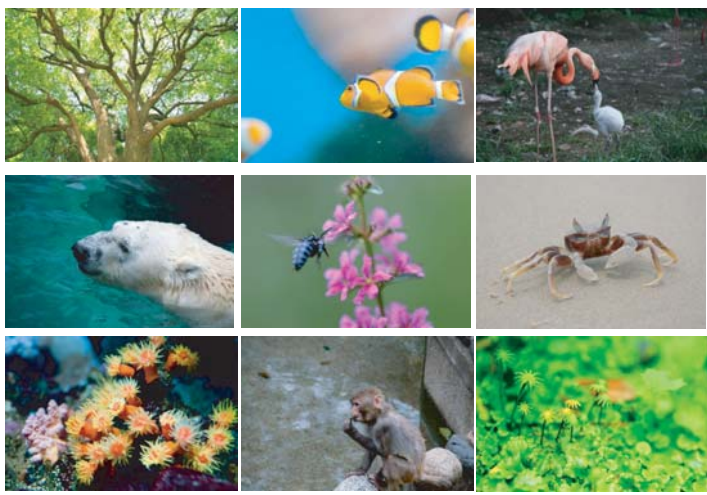
森林、里地里山、河川、湿原、沿岸、サンゴ礁、干潟、島嶼、都市の緑地など、いろいろなタイプの自然があります。

異なるタイプの自然には、異なる生物相がみられ、それぞれ独自の生態系を形作っています。



種の多様性

動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生物がいます。



遺伝子の多様性

同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があります。

例えば・・・

ゲンジボタルの発光周期は、中部山岳地帯の「西側では2秒」、「東側では4秒」と異なっています

メダカは北日本の集団と南日本の集団では遺伝的に異なっています

アサリの貝殻の模様は千差万別であり、一団体ずつ異なっています

生物多様性の保全がなぜ大切なのでしょうか？

私たち人間を含むすべての生物は、生物多様性がもたらすたくさんの自然のめぐみ[※]によって、お互いの「いのち」と「暮らし」を支えています。生物多様性がもたらすめぐみが無ければ、私たちは生きていくことができません。

※これらのめぐみは『生態系サービス』と表現されることもあります。

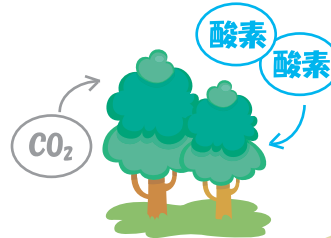
暮らしの基盤



食べ物、木材（燃料・建材）、医薬品、バイオミミクリー[※] …など

※生物の形態や機能を真似て技術開発に応用すること

すべての生命の存立基盤



酸素の供給と二酸化炭素の吸収、気温・湿度の調節、水や栄養塩の循環、豊かな土壌 …など



豊かな文化の根源



地域性豊かな文化、自然と共生してきた知恵と伝統 …など

自然に守られる私たちの暮らし

マングローブやサンゴ礁による津波の軽減
山地災害、
土壌流出の軽減
…など



生物多様性の危機とは？

生物多様性は、以下に示す3つの危機[※]に加え、地球温暖化の危機にもさらされています。このことによって、生物多様性を基盤とする様々なめぐみの量や質が低下し、私たち自身の暮らしに様々な影響が生じてきています。

(※生物多様性国家戦略2010より)

第1の危機

人間活動や開発による危機

鑑賞や商業利用のための乱獲・過剰な摂取や埋立などの開発によって生息環境を悪化・破壊するなど、人間活動が自然に与える影響は多大了。

第2の危機

人間活動の縮小による危機

二次林や採草場が利用されなくなったことで生態系のバランスが崩れ、里地里山の動植物が絶滅の危機にさらされています。また、シカやイノシシなどの分布拡大も地域の生態系に大きな影響を与えています。

第3の危機

人間により持ち込まれたものによる危機

外来種が在来種を捕食したり、生息場所を奪ったり、交雑して遺伝的な攪乱をもたらしたりしています。また、化学物質の中には動植物への毒性をもつものがあり、それが生態系に影響を与えています。

地球温暖化の危機

地球温暖化によりもたらされる危機

地球温暖化により、種の減少、絶滅、あるいは生態系の変化を通じた生息地・生育地の縮小や消失が生じてきています。

